

奥沢ダムを廃止します

長年、水道水を供給するとともに、市民の憩いの場として親しまれてきた奥沢ダム。今年8月に、ダム本体に陥没箇所が見つかり、ダムの廃止を決定しました。そこで、奥沢ダムの廃止に至った経緯や安全対策などについてお知らせします。

ダム廃止に至った経緯

奥沢ダムは、勝納川と二股沢川の二つの川が流入する水道専用ダムとして、大正3年に完成。97年間、安全で良質な水道水を供給してきました。

奥沢ダムは、土を盛り上げて築造した「アースダム」であるため、これまででも漏水を確認していましたが、しかし、6月下旬、漏水量や濁りに異常が見られたため、7月6日から取水ゲートを閉鎖し、ダムの水位を徐々に低下させて原因調査を始めました。そして、8月5日、満水位下約4mの地点が直径約3m、深さ約1・4mにわたって円すい状に陥没しているのを発見しました。市では、ダムの強度を確保するため、陥没箇所を何とか修復できないか改修方法を検討してきました。し



満水位下約4mの地点に見つかった円すい状の陥没箇所。

かし、大正3年に完成したダムであるため、現在の施設基準による改修には数十億円もの費用が掛かることや、奥沢ダムを廃止しても、減少した給水量を他の水源から補えることから、やむを得ず廃止することになりました。

陥没箇所に対する安全対策

現在、奥沢ダムでは、降雨などによって水位が陥没箇所まで上昇しないよう、排水用ポンプによる強制排水と取水塔からの非常放流を行っています。さらに、ダムに流入する水量を減らすため、二股沢川の一部を勝納川に流す仮設水路の工事を行いました。

また、大雨への対策としては、市で備えている排水用ポンプ9台のほかにも、北海道開発局から自走式排水ポンプ車8台、北海道から排水用ポンプ15台の支援を受け、万全の態勢を整えています。

しかし、毎年春には二股沢川から多量の雪解け水がダムに流入し、水位が上昇します。これについては、排水ポンプによる強制排水だけでは対応しきれないため、冬の渇水期にダムを掘削し、二股沢川から水を直接勝納川へ流す工事を行う予定です。これらの対策により、水位の上昇



多くの見物客が訪れる「水すだれ」。奥沢ダム工事のため、一般開放はしばらく中止します。

抑制を図り、安全確保に努めています。勝納川流域住民の皆さんには、大雨が予想される場合など必要に応じて情報を提供します。

これまで奥沢ダムは、市内水道供給量の約8%を担っていました。今後は、この水量を朝里ダムなど他の水源から補います。市民の皆さんは、以前と変わらず、水道水を使用することができま

す。なお、「水すだれ」の愛称で親しまれている階段式溢流路を間近に見ることがができる水管橋は、奥沢ダム関連工事のため一般開放を中止しており、24年以降の再開は未定です。

市では、今後も市民の皆さんに安全で良質な水を提供できるよう努めていきます。

◆お問い合わせは、水道局総務課 ☎ 4111 内線552、FAX 20695 へどうぞ。